

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム(2018)第18巻:

第3&回 日本

学会の動向

第 32 回日本肺癌学会ワークショップを開催して

大 崎 能 伸

平成 29 年 7 月 1 日に旭川グランドホテルで第 32 回日本肺癌学会ワークショップを開催しました。テーマは「最先端の基礎研究の成果から将来の肺癌治療法を想像する」とし、ここ 10 年で飛躍的に改善した肺癌治療を総括し、未来への展望を共有することを目指しました。

進行肺癌の治療は、プラチナ製剤と新規抗がん剤を組み合わせた多剤併用療法が行われてきました。有効な薬剤を選択するために、多くの症例を組み入れた臨床試験が行われてきましたが、治療効果の改善はわずかでした。10 年ほど前に、EGF 受容体に対する分子標的薬が導入されて、治療とその対象が大きく様変わりしました。EGF 受容体に対する分子標的薬のゲフィチニブによる治療では、EGF 受容体遺伝子に突然変異があれば効果が極めて高く、多発転移で重症の患者が数週間の服薬で劇的に改善して歩いて帰れるようになるばかりか、そのような進行癌でも 3 年、5 年の生存が得られるようになりました。しかし、1 年未満の治療で耐性になる症例も多く、耐性の機序の解明とその克服が命題になりました。その後さらに、ALK 融合遺伝子が分子標的治療の標的になることが明らかになりました。ALK 融合遺伝子は非小細胞肺癌の 3 - 5% 位にみられます。現在では、その他の多くの遺伝子異常が標的になることが明らかになってきましたが、それぞれの頻度は非小細胞肺癌の 1% 程度です。

平成 28 年からは、免疫チェックポイント阻害薬が肺癌治療に導入され、抗がん剤との比較試験では、生存期間に大きな有意差がつき、さらに、免疫チェックポイント阻害薬での治療例に長期生存例が多くみられることが注目されました。免疫チェックポイント阻害

薬は直接癌を攻撃するのではなく、がん細胞を傷害する T 細胞を活性化する治療です。臨床でのこの薬剤の効果は、奏効率が 20%、病勢コントロールが 20% 程度の成績が得られています。

本ワークショップでは、分子標的薬と免疫チェックポイント阻害薬に焦点を絞り、最新の情報が得られるようなプログラムを組みました。さらに、EGF 受容体阻害薬が耐性になる機序を解明した、ハーバード大学の小林進先生をお招きして、EGF 受容体に対する分子標的薬の耐性を誘導する T790M 遺伝子変異の発見についてご講演をいただきました。

おかげさまで、第 32 回日本肺癌学会ワークショップでは 144 名のご参加を頂き、大変有意義で実りのある情報交換ができたものと思います。ご支援を頂きました、旭川医科大学同窓会の皆様に心からお礼を申し上げます。



ワークショップ終了後、
小林進先生を囲んでの慰労会。

【プログラム】

■第1部

1. 分子標的治療時代の臨床試験
 講師：光富 徹哉（近畿大学医学部外科学講座 呼吸器外科部門）
 座長：大崎 能伸（旭川医科大学病院 呼吸器センター）
2. 肺癌の希少遺伝子異常に対する分子標的薬の治療開発と個別化医療の確立への挑戦
 講師：後藤 功一（国立がん研究センター東病院 呼吸器内科）
 座長：岡本 勇（九州大学病院 呼吸器科）
3. 液体生検の展望
 講師：荒金 尚子（佐賀大学医学部附属病院 呼吸器内科）
 座長：今村 文生（大阪国際がんセンター 呼吸器内科・臨床腫瘍科）

■スポンサードセミナー1（共催：中外製薬株式会社）

ALK 陽性肺がんの最新の話

- 講師：山本 昇（国立がん研究センター中央病院 先端医療科）
 座長：前門戸 任（岩手医科大学医学部 内科学講座 呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野）

■ランチョンセミナー（共催：アストラゼネカ株式会社）

EGFR 変異を伴う非小細胞肺癌における抵抗性のメカニズム

- 講師：小林 進（Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School）

T790M 変異検査とタグリッソ臨床経験の共有

- 講師：剣持 広知（静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科）
 座長：山本 昇（国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科）

■スポンサードセミナー2

免疫チェックポイント阻害剤による新たなチャプターの幕開け

- 講師：大泉 聡史（北海道がんセンター 呼吸器内科）

- 座長：佐々木治一郎（北里大学医学部附属 新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部

門 臨床腫瘍学)

（共催：小野薬品工業株式会社・ Bristol・マイヤーズスクイヴ株式会社）

■第2部

1. バイオマーカー研究の最前線
 講師：植田 幸嗣（(公財)がん研究会 がんプレジション医療研究センター）
 座長：西尾 和人（近畿大学医学部 ゲノム生物学教室）
 2. がん免疫療法研究の最前線
 講師：大栗 敬幸（旭川医科大学医学部病理学講座 免疫病理分野）
 座長：西川 博嘉（国立がん研究センター研究所 腫瘍免疫研究分野／同・先端医療開発センター免疫 TR 分野／名古屋大学大学院医学系研究科 分子細胞免疫学）
 3. 免疫チェックポイント阻害剤の臨床成績
 講師：西尾 誠人（がん研究会有明病院 呼吸器内科）
 座長：吉野 一郎（千葉大学大学院医学系研究院 呼吸器病態外科学）
- ### ■スポンサードセミナー3（共催：MSD 株式会社・大鵬薬品工業株式会社）
- イメージングが拓く、免疫チェックポイント分子による細胞活性化の時空間的制御機構
- 講師：横須賀 忠（東京医科大学 免疫学分野）
 座長：中川 和彦（近畿大学医学部 内科学腫瘍内科部門）

